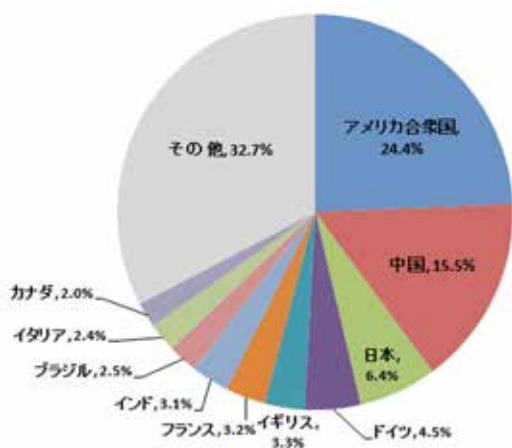


いやあー、暴れる暴れるトランプ大統領 「エゴイスト」「暴走老人」「権力者」に 逆らってはいけない。



世界全体に占める各国名目のGDP比
(2017年、IMF予想)

世界全体に占める各国名目GDP比(2017年、IMF予想)によればアメリカのGDPは24.4%。世界の貿易の43.8%はドルです。

核ミサイル2000発の発射ボタンを握り、選挙演説で公言した様々な暴言を大統領令の量産で実行に移そうとしている。

トランプ新大統領の「公言」が、よく考えた末の公言なら「公約」と言えそうだが、トランプ新大統領の場合「思いつき」「ハッター」「脅し」など『暴言』の域を出ていないように感じる。「朝令暮改」よろ

しく、「改めるに憚られることはない」と思うのだが、この「暴走老人」は頑固に「大統領令」をどしどし量産し、新大統領の“仕事”を精力的にこなしている。

それに加えて「ツイッター」を駆使し、知識不足な“お頭”で放言しまくるのだから、始末が悪い。

それでもなお「ヒラリー・クリントン女史よりはまし、だ」と思えるのだから、今回の大統領選挙は「アメリカ国民」にとって本当に不幸な選挙だったに違いない。いわば、ドツポにはまったようなものだ。

しかし、ご近所の「エゴイスト」で「暴走老人」なら知らんふりで避ければよいのだけれど、相手はアメリカの大統領だ。下手に怒らしたら具合が悪い。

ひたすら、低姿勢で「あんたはえらい！」と褒めそやす。「面従腹背」で接するよりほかに方法はない。

とりあえず、いうこと聞いて嵐の過ぎるのを待つ！

2年半もすれば中間選挙があるのでこ

の調子を続ければ共和党はボロボロ。大統領の政党が負けてしまう。さあに、「常識的に」「品よく」しなければマズイとなるはず。自分の「エゴを抑え」て、「暴走もほどほど」ということにならざるを得ない。

先月号に、トヨタのメキシコ工場の件を書いたが、トランプ新大統領に対してすでにアメリカに工場10か所を操業し、200万台以上の車を製造、ディーラ数は1500を超え、13万6000人の雇用を生み出している、など正攻法の話を持ち出しては返って逆効果。まずは、メキシコでのカローラ製造はキッパリと「止めます」と言うておけばよい。工場完成は2019年だからまだ時間はある。この手のご老人はすり寄っていけば「いい奴だな」となるが、抵抗したり反抗したりすると徹底的な「イジメ」や「嫌がらせ」に出てくる。

ソフトバンクの孫正義氏は上手にすり寄っていったし、中国のネット販売の「アリババ」の馬さんもすり寄っていった。

トランプ新大統領はメキシコからアメリカに入ってくる車に『国境税』をかけるというのだから、これは逆らっちゃダメ。

日本からアメリカに輸出する日本車に



はアメリカは2.5%の関税をかけている。トラックには何と25%もの関税をかけている。これだけ関税をかけても日本車が選ばれるのはなぜなのか？トランプ新大統領が自然に理解するまで気長に待つより仕方がない。

GMやフォードがアメリカで車を造ろうというが雇用は増えるはずがない。なぜなら高い労働コストを払ってアメリカ国内で車を造って儲けようと思えば、人件費を減らして競争力のある価格設定にするしかない。

そのためには、工場そのものをロボットにする必要がある。つまり、機械の仕事は増えるが人間の雇用は却って少なくなるのではないだろうか？

